

未来を明るく照らす「8つのプロジェクト」
日本の「匠の技」が、世界を笑顔にする！
 国際協力の最前線で広がる日本ならではの技術が、世界と日本の明日を変えていく。

Text by COURRIER Japon



裁縫コースの教室では、足踏みミシンがカタカタと鳴る懐かしい音が響きわたる

縫製を教える職業訓練が女性たちの未来をつむぐ

NIGERIA ナイジェリア

JICA専門家派遣

ナ イジェリアでは女性の社会進出を促進しようと、政府主導で80年代に「女性センター」が全国に700カ所以上も設立された。識字教育や職業訓練を目的としていたが、あまりに数が多すぎて管理が難しくなり、大半が機能しなくなった。そこで、95年に全国の女性センターを管轄

する本部を設立。組織の管理運営を見直すため、10年前からJICAの専門家チームが指導に当たっている。その一人である甲斐田きよみは、アフリカの女性支援のために20年以上働き続けている。甲斐田が担当するセンターの一つ、ナイジャ州にあるパイコロ女性センターで職業訓練を受ける女性は約80人。コースでは、主に縫製、編み物などの手仕事を教えている。

ナイジェリアの女性の服はほとんどがオーダーメイドなので、縫製の仕事の需要は多い。「女性が家でも働ける縫製の職業トレーニングは、現地の状況にぴったりです」（大野）

州女性省の局長は「今後もニーズにあわせてたコースを作っていく。我が国の未来には女性の力が必要です」と顔をほころばせる。

女 性が働くことがまだ珍しかった時代に、資生堂は美容部員の前身「ミス・シセイドウ」の職で女性を雇用し、その社会進出を後押しした。2013年から、同社はODAを活用し、バングラデシュのBOP（貧困層）の女性を対象にした現

美しく生きるために美容と健康の知識を共有

BANGLADESH バングラデシュ

資生堂

現地企業の啓発普及員と協力しワークショップを行っている



地での支援活動を行っている。首都ダッカのスラムでも、女性たちはみなヘアオイルを使い、身だしなみに余念がない。キレイでいたいという女性の願いは世界共通だ。

あわせて現地企業と協力し、スキンケアの方法を教えるワークショップも開催。実際に同社の製品を試した参加者たちからは、「気持ちいい！」と嬉しそうなお声が上がった。

また、製品の使いかただけでなく「家畜を触ったら手を洗う」、「油を控えて野菜をとると肌にいい」といった衛生面や食事の指導も行っている。

資生堂の取り組みが、今後もバングラデシュの女性の笑顔を増やす。

「美容と健康に関する知識を教えることで女性の生活向上に貢献するプログラムです。今後、参加者の中から、資生堂の美容部員として働きたいという女性が出てくるかもしれませんね」（大野）

解説

大野 泉

政策研究大学院大学教授。専門は経済開発、開発援助政策、国際協力。国際開発動向の分析や東アジアの開発援助経験の対外発信、ODA改革に向けた提言に取り組む。

タ

タイの首都バンコクの慢性的な渋滞を緩和するため、日本はバンコク北郊のノンタブリ県で

全長460mに及ぶ橋を建設し、新しい車の流れを作るODA(円借款)事業を進める。工事を手掛ける三井住友建設のプロジェクトマネージャー高橋克行は言う。

「自分たちが建造したものが残り、現地の人たちに継続的に使ってもらえるのが、橋梁屋の醍醐味です」

建設中の橋は、「エクストラロード」というタイで初めて採用される形式だ。通常は橋桁の内側にある補強材を外側に配置することで、主塔の高さを低く抑える。そのため圧迫感がなく、

またコストの削減にもつながるといふ。

「最先端技術を用いたインフラ整備という日本らしい支援ですね」(大野)

すでに約9割が完成。12月5日のタイ国王誕生日の開通を目指して、追いつみ

をかける。

この橋のほか、日本によって13本の橋がチャオプラヤ川に架けられた

日本発・最先端工法の橋がバンコクの渋滞を解消

THAILAND タイ | 三井住友建設

COLUMN 海外からの視点

世界のメディアが報じる 日本の国際貢献がスゴイ!

ふ だんはあまり耳にすることのない国際貢献の現場の実情だが、日本の取り組みは現地メディアで頻りに取り上げられている。

たとえば、「スーダン・ナウ」誌では、ODAによって井戸に設置された太陽光で動く給水ポンプのおかげで、「女性が水汲み労働から解放された」という喜びの声を紹介している。

また、ボツワナの「サンデー・スタンダード」紙は92年から派遣されているJICAボランティアの新メンバーの到着を報じ、今後の活躍に期待を示す。

「キルギスの言論」紙は、日本の提唱する理念「人間の安全保障」が、テロや麻薬密売といった問題解決の糸口になるという考えを各国外務大臣が示したと報じた。ボリビアの「カンビオ」紙によれば、ODAによってメカパカ市の学校に建設された6つの教室に対し、市議会が「子供たちが学習に意欲的になる」と深い感謝を述べたという。

日本の支援は、世界のどこかで人々の幸福を形づくっているのだ。



現地で栽培、焙煎したゴマは日本にも出荷予定だ

京都のゴマメーカーが 小規模農家の生活を変える

PARAGUAY パラグアイ
わだまんサイエンス

ゴ マで世界平和を!」をモットーにする「わだまんサイエンス」は、ゴマ製品の企画開発と販売を行っている京都のゴマメーカーだ。

同社は、中小企業の海外展開を支援するODAの制度をきっかけに、南米パラグアイのゴマ農家に焙煎技術を教えるプロジェクトを進めている。

パラグアイではもともとゴマは輸出用に生産されていたが、国民はこれが食べ物だという認識すら持っていなかった。今後は、ゴマ製品の国内販売も視野に入れている。

「パラグアイのゴマ農家は小規模農家なので、彼らの現金収入が増加すれば生活向上にもつながります」(大野)

来年には同社の焙煎機を導入した工場を建設、本格的に現地生産を始める。



南部高速道路の建設も日本のODAで行われた

道路情報を瞬時にキャッチ ドライバーの安全を守る

SRI LANKA スリランカ
三菱重工

2 011年、大都市コロンボと観光地のゴールを結ぶ南部高速道路が開通。所要時間が大幅に短縮され、観光客が倍増した。だが、交通量の増加により、事故や渋滞の発生が懸念されている。そこで、高速道路の安全性を確保しようとODA事業で日本の交通管制システムの導入が決定した。

今後、車両を数えるカメラを41台、雨量計を11台設置し、そこから得た情報を分析する交通管制室を整備する。「日本式的高速道路システムを、他のエリアでも広く普及させることも狙いの一つです」(大野)

プロジェクトに携わる武市義典は「この国の大半は日本車。日本の技術への信頼感が高まるような交通管制システムを作りたい」と気合を入れる。

COURTESY OF JICA